勵め興亜の中堅戦士　青年に　座談会[[1]](#footnote-1)

時　12月20日

所　半島ホテル

出席の方々（寫眞向つて左より）

文藝家　香山光郎氏（李光洙改め）

朝鮮生命社長・中樞院参議　韓相龍氏

哲學博士　張徳秀氏

精神總動員聯盟朝鮮本部専務理事　由上治三郎氏

中央基督教青年會長（寫眞圓内）　尹致昊氏

　　　　　　　　本社側　社長　崔麟／顧問　井上収

（開會午後四時三十五分）

崔社長　　ちょつとげます。もしせまりまして、の、に來さいまして、まことにうございます。くげます。

めて多な十四年は、がはのどこのよりも一でつてりましたことは、ののののにのよろしきをたであるとに、におきましてののなるのであるとふのでありまして、まことににへないであります。

のり來年は二千六百年、の三十年、の四年をへるといふやうな、からもからもめてい、な、の年をへることにきましては、がはるにきましては、よりも一んで、このにしてかなければならぬとふのであります。

それにきまして、これからををつてつ年をにしてくといふやうなことはいよいよなことでありますので、はさんのをわつて、それを『』にし、の一としたいへであります。

のなどは、におひしてありますからどうかよろしくおひします。

井上氏　　よりおしのく、ある二千六百年の年にちまして、年、へののを、のによりしたいとひます。

が、かにをめ、一に一をしてることは、の、業の、まことににへません。しらをしますと、二年三年のこのに、、といつたものがしてはゐないかとはれます。

はよりのでしてゐるにもらず、かの年月でれたり、みがるやうではなりません。々はどこものまで頑張りさなければなりません。のは六年にび、源家の奥州平定はには九年にも三年といふであり、のは十年につてりますが、をめり、々のは、日からもできないにも々としてをしてります。

どうかこのをもつて、のにするととをおひしたいとじます。

生命奉仕まで行け

由上氏　　いにりましてどうも……まうされました年とふのはわかつたやうでわかりませんが、のも

井上氏　　どちらもで一でありますから、そのにいておしひたいのでありますが、あなたのはにののことにいていろいろがあるやうでありますからのおののおじでもんでも。

由上氏　　からふ年をしてたいとつてります、それはの年はのがつたといふか、りれのためにし、のためにくといふやうなで、のためにくといふやうなのしてゐることをにふのです。でこののにし、一にといふがて、れをてゝのためにくをらなければならぬといふことがしくへられてゐるが、もつてどうもふやうにつてらないやうなじがあります。

そこでこののをへるために、はといふことを、年にいにやつてはなければならぬ。つてこれをする人も、といふことをよくはれますけれども、これをにぐつとくくところまで、つてゐないやうにずるのであります。といつてをするとか、はをくとか、をすとかいふやうなことが、とされてをつてそのまつた人をにするといふことが一つけてゐるとふ。まつたをこゝのをけとか、これだけをしてにするとつたやうで、がやがやとをさして、もにをさしてのみゐてといふものはつてゐない。

くもをやらせるならば、そこにかのがまる、さうしたらそこには、これをするがあるに違ひない、でこのするは、そのをめてなるをやるかといふをて、がまるにそのにいてをにへる、そこで二十なり三十とまつた人は、のふことをく、つまりといふを、そこでへなければならぬ。それからはこれだけのをするといふがてられてあるからしてしく、しくやつてかなければならぬ。十からぬまつたが一つのをするために、一でやらなければならぬ。そこでがやがやとをしたり、にれたからとつてしたり、がいたからとつてにおをんだり、さういふことをかられてやれば、そこにはがないのであります。が九からめるとつたならば、十のはするもなければ、しをするもゐない、をれるもなく、しくやつてく、さうして十になつたらが『ピー』とをきをしてめてなになるやうにならなければならぬのであります。

は一ならば一をしてにすればそれでよいといふのではなく、そのにさせるといふ、をふ、さうしてをんじてをさせる、一してやらせるところのこのをつてめてのがせられ、まつたものが、たゞがやがやといでのみゐてはされたといふことははれない。にくても、くても、からをめるのだといふことになつたら、にまない、をてのためにす、つまりをるといふ一つのをしてく。まつたをして、このとなし、くしてめてとなり、そのはとなりるとふのであります。それがとなるわけであります。で、このがもなことゝへてります。

井上氏　　次にさんのおにはやがてといふおがありましたが、はをつてられ、ににくられのもじですが、の年をのおのやうにすることが、のののからなりや、や、さういふにいてどうかを……

張徳秀氏

はでにしてから、もいので、をもつて、なことがへるかどうかわからないのですが、いのにいてじたことをへば、がつてゐるにいて、はみながらにして、一にをやれとふことをふのであります。ところがはそれにしてふには、『してする』とふことをふのであります。つまりにてのもないとふやうなことをひます。のもないとふことはらにいはせればがられないといふことがののらしい。

はとして、さういふことをく時一するが、しかし、することはずしもをるためばかりでない。をたら、をなければならないが、する時にはといふことよりも、ろのといふがしい[。]しきため、そのをして、そのをするといふ、がにはしい[。]つてがする時は、をてにくしでもをはんがために、このことはにつてゐるかどうかといふより、たゞのふことをしてにしてなをて、ひはにつて、が五十ふところ八十へばよいといふことをにいて、これをとしてしてゐる[。]だからカンニングをしたりなどすることになる。いはゆるとなり、のでにをればそれでりるといふがいのであります。

それよりのするところは、のがこれからは一つのにをれて、にてするしないかはからのことで[、]これはとなるが、と一になつてのをいてたいといふが、にもつとはびこつてたらよいとふ。さうなればにするはなくなり、しても、このはのため、のため、のためとるやうになつて[[2]](#footnote-2)、にである。じしてもにつこりつてにすることが、ににがはつてるとふ。でづとにき、のためにすと、いふことがに、年ののにくつて行け[ば、]そのをするのためにをげ、をしても、のため、のためにといふことになり、そこににきいがれ、いくらをしてもんでるわけであります。たゞかういふがないと、かういふことをやれ、あゝいふことをやれといふと、の、のになつてふ。だからをれてきたい。

いまのはさういふことがでやつてるのだらうが、このにはどなたがつてあるか、そののもらんもあり、おのみしてるわけで、にするといふことのみでもをすることになりますが、・・・・これをもっとよく・・・・・・・せしめてきたいものであります。

のにしましても、かういふがのしいところであり、かゝるがにこれがためにするのはにだ、あらゆる難にすることもにだといふやうにしてめてさんのおつしやつたやうな、をへるをするのにになるものとふ[。]たゞはのため、ひはののためにといふやうなことのためにすることはりましからず、一は、、さういふにしなければのをさない[。]からる一つの、さういふものがてめててのもするものとふ[。]これはにとした、のやうであるが、の、じはさういふじをもつてをります。

井上氏　　さんのおによりますと、の年にけてゐるものは、とのをにするといふやうな、のにけてゐるともはれましたが、これはせずしてさんのおとも一してゐるやうであります[。]さうしますと、こののもよくないがのにもがあつたといふことになりますが、さん、一つそののといふ、のからおをひたいとじますが、でせう。

心に『實』を入れて

阿知和氏　　おになりました、で、ははんでゐます。のにいてはもにんでゐるやうでありますが、においてはまだなものがいのではないかとひます[。]ただのおもありましたが、年ののをすることになり、萬かの、めおましになって、二萬か、三萬かのがにをり、つるはしをられたのでありますが、しこの々がにのためひはのためであるといふやうなで、一でもれてらもし、いことだとおじになつたがあるかとふと、そのをにてつたとしてはにひいものがあります。ひとりのみならず、へのは年もに二百四十三萬千といふのでありますが、その二百四十萬といふのはに來めてのことで、そのからればにであるが、このかは、にに參したものであるかどうか、らくはさうふとだまないが、がれてくからついてく、されるから、がなしにるといふのではあるまいか[。]さういふなものであると、らがえてもりがない。もこれがなつてにをすることにもなりませうが、しまだまだ々のにするまでにはのがあるのであります。

だからこのどうしても、一もく、から參するになるやうにくことがもである。それでいろいろなからにへがあるが、もじましたことは、は五にをて、六にるのであります。さうしてのなにではありますが、よくふ、そのでじたことは、もから一ねやうとつてゐながらがなく、めて、そのをつかまへて、あなたはどこであるかとねたところ、はのからてゐます[。]してり、はでありますとへたのであります[。]そこでこのといふものにいてへさせられたが、なるものは、これはこんなことをいていたらどうかとひますが、一のから、のからも一まれ、るはとまではれ、でもまだがつてゐるのでありまして、それにのあるである。しこの一ののでありましたが、のにに參りまして、まだのがつて、いまがにせんとするするで、からはさいのくであります。そのはまでにつて參つたのでありますが、そののプラツトホームにりますと、のがいをかけて々々しくさんのためにいてゐるのであります。でそのをるとといてありますので、かいたのであります。にのまへはがあり、そのはによつてされ、またにはもにつてつて、そののといふことにもかされましたが、それよりもなるものがさういふところにつてりまして、さうしてにな塲所、にくにもがしてれるといふやうなまだまだなにくものがて、をするそのさにはにしました。

なをもつておしましても、にはのがりまして、をかしてれ、をさせてれとふには、のもしないでバケツをしてれ、をしてれとにがくて、かなのになつてくがないでもないが、はそんななどなく、このに、ひはにいにも、きちんと一をつてて、一にきをしてゐるのであります。でのはも、そこまでのがなければ嘘だとひます。朝ののでもさうでありまして、がすゝめたからとか、おつきだといふのでなく、からのあののをんで參しているのであります。

そこではどうしてもしのにをれて、のくせて置く、してゐるといふことでなしに、いがあれば、これをし、にしないであつたならば、のをさせるにはにるといふをめてゐるであり、それでめてゆることがにくのではないかとひます。參をしてられまして、一が二、二が三と參のをぬるにつて、にをするといふやうになることはではありませうが、しの、のにることが一でありますので、はゆるをしし、にのいといふことをらしめることがもなことと、このにずるであります。がしいから、のだからといふでおりしたり、をするといふことは、だりないやうなじがするのであります。まだげたいことはいますが、じましたこと……のをもつわけではありませんが、その一をげたにぎません。

井上氏　洙さん。の年、ばかりでなく、一のの々に、のやうな教をめた、どのまでゆけるでせう。

將來への活眼をひらけ

李光洙　さんのおにはにしました。はかのはづみにじたことがあるが、で一番のないものは、でなからうかとふことです。

ではがんであるやうにいはれてゐるが、それでさへ二三十萬にぎない[。]それはく一のにられてゐて、のといふものはがまれてのはあつたが、ではそれさへどない[。]といふことはいにけるをいでたが、のみを[]るといふことさへもこのでは十八九はすたれてります。でのはさういふかられてゐるとつてもよいとひますと、にのみつて、とかといふことをつたらいとつてふなをとつてります[。]だからはからてのないであるとふことをしてよいといます。

そのとしてどういふがつてたかとふと、このの一たるは、しきのにされてゐるといふがございません。でそのをふといふことになります[。]さつきさんからおになりましたが、たゞがへればよいといふことになります。でのはであるかとふとでありまして、そのといふがあれば、このはによつてされてゐるといふをもつのでありますが、の年はらをふため、がになり、がになつた、それをにけるののゐであるとさないで、のの[]、しさのはにあるとし、のにし、ひはに、ひはにといふやうなものにしてゐるのであります。にがつてからは、々のあらゆるのをひはにして、はがないといふがし、そのがのをしたのであります。

にとといふにおきましても、らがであるのはのためだといふつたへを一、一のがかにもつてゐた[。]このやうなされたへをくのはこれもがないからで、をつてつたならば、がかうしてにされるといふことは、にいことで、これもの、がつたのであるとじることがるのであります。だからそのなるもをへ[る。]もり、はのとつてよい、をんでります。もいことをすればはび、をすれば、れて神はばないといて、りをへてゐるのであります。でどんなでもずることによつて、なくともをずることになることはとふのであります。そこでにはこのもけてゐるのを十にへむがあるとへます。

二は、はいばかりするやうですが、一にはがつてゐる。にするへがつてゐとひます。といふのはもばかりをてゐる、してはなるの一であり、なるれのの一であるといふことをれて、りをめてゐる。でのはののみをてし或ひはするといふことをやる。

しといふものゝれはく、十百といふものはかのにれるもので、がしい、ひはをつてれば十、二十、或ひは百とつに、はもえせるものではなく、ばずしてえるものではないから、しいとをつてれば、はなにあつても、五十にはのをることがます。でといふものをられたの一としてはならないが、の人はどうもこののをつてゐるのであります。りをつめてばかりゐてはならないのに、にのみをるので、こゝになるをしてるわけであります。

感激と理想の欠如

それから一つ、これは年のににだとひますので、におひしたいのでありますが、が四、五年になつた時、二、三ケ月のをらせてあるとをゑ込みたいとへてゐます。はこれはになるをへました[。]といふのは、がをし、國防にをかけてた一つのであるからであります。併し、胸を割つていへば朝鮮人は志願兵制度（以下二行半不明）

[似顔絵の説明文]

* ″生命奉仕まで往かなくちやうそだ″悲憤慷慨する　由上さん
* 宗教教育に熱辧を揮ひ、膝を乗り出し卓をたゝく　張徳秀氏

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（1940年1月1日号）

感激と理想の缺如

（李光洙の談話續き）

さつきさんからおつしやつたやうにはどうもさいおのことなどのことばかりへ、できながないとはれたが、それは〝″がないといふところにつのがあるようにひます。

の年ならば、はをつてつのだ、はをつくりげるのだといふがあり、そこにきながあるが、のはさういふきながまだのににしてゐない。にける一きなはで、教、もあるが、ののはであり、わがのはのにあるのだといふのが、一のいとひます。がのインテリの年でさへ、なほはもなくても、のにしたはあるまい、はのをするほどのものではないといふじをもつてゐるのはであります。で、のがのとじく、ののはの年のにかゝつてゐるといふことをせしめたならば、そこにきなはらきさい一のことはへないで、いにつてんでくものとへます。

にのはでがきである。あるにいてはにるがあるが、そのがきなのにもつべきがらのにまだとしてゐる。そのとしてはににるきなをなしてゐるのであります。でそのをへるには、おにのがかゝつてゐるのだとふことをもつともつとらかのではつきりとさしてしいのです。

そのの一つのとしてにといふことはないが、のの二、三ケ月でもよいをやらして、こゝですつかりたゝきむ。のなはき、をいへばをしたものは、くとも三ケ六ケのをけさせることにしてきたい、このことはしてなではなく、へすのはそのにもがあり三ケや六ケにつてもはないものとひます。さうすれば年のもにりもにくなるだらうとひます。

舞䑓無限の現代青年

井上氏　　では一ツ昊におひします。のさんや洙さんの年をおきしましたが、は一ツ、に教のからして、にはつてゐられるのなり、年の教にするとかをおしさい。

尹致昊氏　　はのなおをさせていてうじます。年の教をせとのですが、としてはののおに、年にするおはかしいとじます。のとふものを二つ三つしべてやうとひます。はもう年ではありませんが、り五、六十年には年の一でありました。のの年とそのの年とふものは、々とがつてゐますだらうし、、にいて、のがあります。あるにての年のをしてやるがあります[。]の年でしたらとふものがなかつた、あるのには、たるをればりる。しかしの年ではがふ[。]なで、らはいでゐるのであります。くの年のとはのがありえますから、よりにの年をすべきであります。

のですがるがかうふをふてりました。『どうもの年はだ、これではの來がひやられる、の年はによかつたね、もかつたし、にをし、のをした。だがの年はさうではない、もなければ教もされてゐない[。]くつたものだ』と。しはこののちをらんのです、しての年がいんぢやない、だからとふての年がよかつたでもないのです、がつてゐるからこその年がいやうにえる、が六十年の年だがしていとははん、の年がこのやうなにるからこそのをけるのです。コンデシヨンがい。六十年の年はいなどめなかつた。やりくてもなかつたのです。もなかつた、もない[、]カフエもなければ〝妓生″もありませんでしたね、だからしてして年がよかつたわけぢやないね。し日はさうでありませんね。いをやるがでもあります、にされるんですな、まあんなものであります、の年はしていばかりぢやないのです。がよいとふのでもない。の年にもよいもあつたらうし、いもかつ[た]でせう、だがだだの年はの年にしてゆるにおいてらんがいのであります。にがつてゐるのです、とふものにであります、をして[こなか]つたのがそのぢやないかとひます。

一にのはいですな。しはのによつてだんだんよくなつてたやうです、はからもさうでしたが、にはのがなか[つ]た、しはぢやありません。をばとしてしてたのです。はとはへないのです。にもがあります、しこれはのでありません、特に五百はこのをもつてとしてましたが、一のはなかつたのです。これがのまでしてました。

のはりませんが、はまあかういふにてります。五、六十のでしたらしてにしたらになれる、にさへなつたら一[]ではなにまでゆける。だがしこれはのではありません。一のだけのです。

にでないりはらはがた。であるからにアンビシヨン（）とふものがなかつたのです。の年はそうでありません。はがふ。もなの一になつたのでありまするから、の年のがくなつた。ちアンビシヨンがしたです[。]いのにつてひまゝにがるやうになりました。あるものがなでうんとけばすることがるやうになつたものであります。はにあるとへる年のがらなかつたとふことをするのです。ではもうそんなはありません。

コンデイシヨンが々よくなるにつて、年もからがされてくだらうとひます。のがをしますからね、もうのではありません。されたであつた六十年の年のより、もつともつといになつたから、の年は迷はずにむようにはします。これからは一のによつて年をすべきであります。れからやのもさうですが、のなたる年のは、のにもきながあるだらうから、もつともつとをしてやらなければなりません。にのくの、がの年もあるにはつてるですからにものをてさせてやるです。これからは年もにもなれるだらうし、にもなれるだらうから、の年にらんやうによりのをさせねばなりません。年のはりがないと駄目ですな[。]『ち』とふのに、年をするが一よいといます。

さんからじをされたやうにえてりますがくはをきまなくちやね……のにらないのがあつたら、じくはなければならん。してすべきもなければとしてもしてしてないから、このはしないやうにでもさせてさい。のではだだのはゆるにいてつてますから、くじをつやうにしなければなりませぬ。

をもたせる、なだとふりをつにへなければです。いは一のによつてつがるのであります。

べましたり、一にの年は六十年の年よりしてくない、てがよくなつた、であります。

二に六十年の年はがりにかつた、ちをんでにしたらになれるがのでありますがの年はアンビシヨンをよりくするがる。ちがであります。のとしてはもとよりにをばすがるやうになりましたです。

も一つははをふちやいかん、の年となをするはしてをふてはならん、もつともつといをつてとになれるやうする

からをこぼしたらはどころかしてひます。をして年のをりれなになるやうにする、まあのはこんなものです。

井上氏　　いやどうもなおでございました、くです。年のためによい教になると存じます。では次に韓相龍さんに、年の教をおひします。

内鮮一體は青年の融合から

韓相龍　ではからもをしべてるにします。年の教はになでありまして、のも一に年の教如にあるとじます、のへとしましては、二ツのがあります。

一つは年のち教すべきにあるのるべきと、一つは年のなすべき、ちのからふべき道、この二つであります。一に年のにつてはにをたせるであります。も洙さんからおしがありましたが、ものにはがあります。ののが何によつてされるとふをさせるがです。につてる一のをなせばずそのがれるですね。に『になれそのもをていらる、ならんかもをてぜらるべし』とあります。にするのはににてしなければにをはれるからとか、にられるからやるといふのではいけない[、]がにすれば、のもにしてくれる、ちがじてくれるのであります。でありますから、年、このをさせてやらなければならない。に『これをなせ、あれをせよ』とふただけぢやあまりよいがじませんな。一一このによつてしてゆくが一です。くする中に年にをもたせることがます。ののおとも一するんです。もももは一します。年のはをもたせるです。をめてとしての年のをす、にもからもこのにらなければなりません。

ももうりになりまして、さつきさんがおつしやつた六十年の年ではないが、三、四十年の年であります。て、三十のでしたが、につたのです。のをもつて教をしてまはりました。そこで々とじたがありました。や縣にもおにかゝり、のなりをげて見ました。はのがなひでしてつたでありましたので、もしものがまでもくとしますれば、の年のに々しきをぼすになるのであります。いてはのをすのでありますから、はいにしたりでございます、その、もされて、々とおへにあづかつたであります。それからになりますが、はのをとりれ、のをかしてにいての一になつたのであります。はがえるのとはに年すつかりになつたのでありますが、年のとか年の來にきなをもつてながらしてゐるであります。年もに年のをとりになりつつある。はにも三十年來のをつとりますが、ほんとの一は年がにの年とするによつてめてせられるのです、のおで一もにしてましたはばしいです。

は來年とにり年とにぶのがきでありますので、の年をつとりますが、も々してな年になつてります。もしべましたり、[]をしてるめであります。のな年は、ののめになるとふをつてるからこそ、もしないのです。

歴史をひもとけ

に年のすべきはかとふと々のもあるとじますが、からしますと、をむですな、ちにをつです。のをしなければです、はそのにいていもあるでせうが、どてがをいてます、それからをしたり、されてりますから、年教、の教にはなものです。

のには々と教なりもあるでありませうが、一よいのはがをしたが一よいの教であります。ずにいてをむやうにづけたら年はずなになるでせう。一のとしましては、のはまんのですが、これもによるのでありますから、にあるものがめてしなければなりません。をする、そしてののひをしてそのをれの參とする事です。教がなかつた々にとつてはよりも一よいがのですな、そしてをもたせるんです、々しげましたが、のはてがになつてる[。]がをするのはのがをしたそのいである[。]がにされるのも來ののであるとへる、おしがしくなつたですな（笑聲）

にする、にをんずる、そのはにじ孝行がにつてくる。のにていがあるのです。のたるべきの年に、このとそのをはつきりめてやらんといけません。にの年にはとをしてやる。

三にはふもやつてしいとひます。いづれにもおししやうとひますが、年のがである。にをり、なをるがよりもであります。にするやうになれば、年のも昂揚するはずです。々もありますが、はでをさせてきます。

形式でもよい　やれ

由上氏　　なおをさせて、きました。ここでちょつとげますが、がさつきしましたにしてさんはそのにをつてをられるやうにけられましたが、のへとしましては、してさうでないとひます。とひましても、ののとかとか、のののものでありまして、のないものではない、とへてゐます。年ののためにも、はむしろぢやないかとじます。そのがいとかいとか、のにらず、ののには、はなるがあるのでありまして、としましても、むしろをにしつゝあるのであります。一や二のではのはでありませうが、々そのをねることによつて、年のになるのであります。

も一つくのが一にててにもないをやりるやうにえるかもれませんが、してさうぢやないのです。のちはのとはからのものでありますから、をにへたらいけません。によつて、をしくする、なる、するとふをやつてくのがのなるであるのです。やのをする、に一つのをれる、の『コロ』をふ、そのにいてづ一にのとふをにれなければです、これも一つのの一だとふのちでぶつかつてかんとのにはなれない[。]一つ、なもんぢやだらうといふもあるだらうが、のからでもよい、これも一つのなであります、年の教をたせるめには、にのからの教もなをげるがるのです。にもをりるのです、一でゆかなくてもよい、くのをしてにの參もな參りになる。一一參するからといふてになるんぢやないのです。がるがもしあるとしても、二三ゆくによつてくなつたというもありますから。は一で參に行つてましたが、もらないのにひかれてのにお參りに々參つたがへつてましたね[。]にのでもじがあるのです。てそののがくつてります。の參もなお參りになるのです。なにさへなれればよい。

それからも一つ、教のことですが、か大十五年だとえてりますが、教との教がされることになりましてながあつたですな[。]し、そのをしつてののは、なをめてるぢやないですか[。]なのになる、いをつたにまれる、にするとのをめるようになつたのです。、、のあるになるのです。そのはどうです。あらゆるにもするためにもになるのです。にもがよくなつたとのです。はひとりがばかりのではありません。でもまではのにしてゐましたが、ではにをれるやうになりました。のよりもあるをるが、のにまでしてました。も一つはのへのに參つたのでありますが、そのがのをさにすることがた、あらゆるからされてるとふでありましたので、にしくふたのであります。しながらそののきのには、[の]のよくないがるです。

それには々もあるでありませうが、はがないからであります。をとはない。ちがけてる。一はなをんでる、一はのない、これではののきもれになる。に二千六百年をへまするにりまして、十萬ののをさせてやらなければなりません。ちるべくくのがにして、十萬のをにふてやるのがよりもであります。をよりへさせてやるのがのであります。にあるはく百をやつてりますからまあよいですが、でもしもつともつとのがなんですから、にゐるはからいににするやうおひします。

續『因果律問答』

阿知和氏　　由上さんのおでは、なさつてゐる、がありますから一のしにけへてきます。參やがでないと、がしたやうにおへになつてゐるやうですが、してさういふではありません。參をやるのはいにすべきであり、つてすべきでありますが、もし參するんだつたらもしにやつてしい、がおの々とお參りにられると、でにおえになるとは、がつてゐるんぢやないかとじます。もしなでをむやうにはつてるのでありまして、して參を々するのではありません。それからのおでございますが、ののをやつてくれるが、のはらもかからん、だがのさんが、たらしてのをみながらするはにあるのです、つきもさんがされましたり、のの一くのもの一になるのだとふで、にやらんとのがせられないのです。あしからずおひします。

ちよつとかういふ、があります。にとふ、ものがあつて、、を團に、やつたのですが、教で、ありながら、るに、とかがとなつてやるのでなくダラダラでやつたものもあつたさうです。どうせからしないでをするものはをるのですが、のはをもつてるやうにはしてゐるのであります。

張徳秀氏　　さつきの洙さんのおしので、四、五年のをくとも三はをやらせるやうにすべきだといはれましたが、これはへなければいけないとひますね、をににつて、てをけないともりません。はですがつまらんでされてがしちやくありません。としましてはです。をしくたゝきあげるには年の教が一よいでありますが、からのをするのがのであるとじます。

それからさんの果でひついたことですが、果といふものはいつかずれる[と]いふても、それがい來れるなどといつては、な年にピンとない。それでをのの中にす、つまりよくないひをしたはすぐそのまゝののにれる、といふにへさせるのはどうでせうか。

李光洙　　それもですが、のは、はをむべきでないをします。には倖せとふのをむ。ではぢやありません。もある年がにかうふをしてました。『にもをすさうだ[。]のをへることがる。ではこれからものになるれるか』と[云ふの]ではそれは一にのにあるのだとへました。ちのによつてされるのです。來もであるがのによつてにもになる、であるからしてのによつては、さつきの尹さんのおしのりにもなれる、因は果をむのです、十年もめていたらなとしてのいがあるのです。

が内一の因果であります。やがやらせるのぢやない、とそのがをるのです。

井上　　洙さんはので、るととされましたね、一つをるやうになつた經緯とをひます。

みんな名前をかへませう

李光洙　ににするのものでもございませんのですが、のがえまして々とくもんですから、つひにされたのであります。、にもをされたことは三つのにしてることがます、一ツはの、二ツはのりにをとしてすこと、三ツはものになれることであります。これがのであります。一[に] のはしてでない、しくをらなければがになるのですから、にはない。

二にするはしく内に四のがりるですね。しめないはさんでもよいとふのです。つまりはしてゐない。しかしを『し』も六ケ月のをいたのは、るべくは氏のをしてるやうにはるのです。ですから、はこのをして一らず氏をつやうにしてゐます。

井上　　さうでせうね。らず氏をつやうにしてもそれをはないのだから……

李光洙　　にも一のめには氏をするがあります。にはまれませんが、にるからの内はがにやれますから、千一ののをせず、おにめつて氏をてねばならん。に内をさせくないとふからでは一をもつて々に氏をしたのであります。を々すべきぢやないが、からしましても來のをて氏をさせるよりは、ひつて内の氏をしててなければなりません、なですが、内をへるによつてきながないでもない。いにあるとふのであります。一の々、殊にインテリのがてであるらしいのは、はをつのであります。

ごでせうが、こんながありましたね[。]二千三百萬がするから三十年のですが、、をやらせたが、でたものはもなかつた、うつかりでたらながかゝるとかなんとかつて々恐々だつたさうです。でをつてゐたら山はにされた。のとふものはまあこんなものですね（）にんずればをすですかね、氏のをとするはませんが、のはじものですよ。日のに氏をつてかんと、やのになつていにまれるになります。のをしたら千にりますから[。]には『來のをてゝはにしてがない』とか、も一はあらうが、しのでありますから、日ののとふものをへて、るけくすやうにします。のがをさなければなりません。くともる六月までは二千萬が内の氏をくがのためにもだとじます。

のへとしましては、をするのがしいでは、ないといます。『李』とか『金』とかのも七百年からつてるのですが、も來のものではない。からしたものです。だからからのりものをして、にりのある内氏をくのは、てにした、われわれのの一つであるとひます。

井上氏　　くさうですな、ではにも六七百年はとふものはなかつたですな。

李光洙氏　　さうです。高麗中葉まではある一にはなかつたのです。の某とがあつただけですな。

井上　　のでまれたからといふたさうです。も内でも一は三年から氏がされましたね、も十五年、二千六百年をして、も氏をてる、ににへんです。々なおをさせてきましてうじました、ではこれで。

[似顔絵の説明文]

* 今の青年は素質において確かに向上してゐる、と青年今昔比較論に珍しく熱辧を揮う六十才の青年　尹致昊さん
* 淳々と因果律を説くに及んでお顔は益々圓満に、宛ら後光を發するかに見える香山菩薩　李光洙さん
* 落付いた語調、名透の理論、さすが半島護り朝鮮神宮のお主だけに聞くものをして自づと頭を垂れさす　阿知和さん
* 伊藤公や山縣公の話しを持ち出しての辧説一くさり、韓さんは實業家といふよりも、餘程政治家らしいところがある　韓相龍さん

（1940年1月7日号）

1. 『國民新報』1940年1月1日号と1月7日号に掲載。座談会は1939年12月20日に半島ホテルで開かれた。 [↑](#footnote-ref-1)
2. この部分は活字の順序が乱れているので整理した。原文「になつて、ためるやうの」。 [↑](#footnote-ref-2)